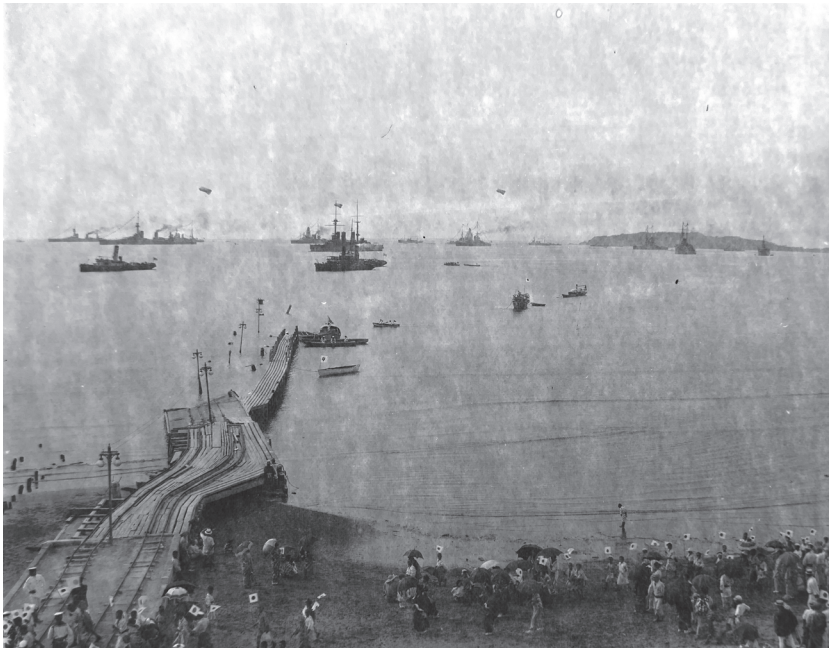
館山市立博物館報
ミュージアム発見伝
No. 98
2024.3.25
【本館】〒294-0036 千葉県館山市館山351-2 TEL0470-23-5212 FAX0470-23-5213
【渚の博物館】〒294-0036 千葉県館山市館山 1564-1
◆開館からの観覧者（令和６年２月 29 日現在）
【本館・館山城】2,386,440 名 【渚の博物館】1,968,222 名

企画展の資料から

この写真はいつのもの？



この写真は、館山町で開業していた川名写真館の所蔵していたガラス乾板で、関東大震災後の館山湾の様子を撮影したものです。

写真には関東大震災によって折れ曲がった館山桟橋や水中に沈んだ街灯、隆起により広がった砂浜が写っています。大正12年（1923）9月1日に発生した大地震によって館山湾周辺では約1・5mもの地盤が隆起し、北条町や館山町では90％以上の家屋が倒潰しました。震度7と推定（当時の基準では震度6）される激震地安房の様子がうかがえます。

このガラス乾板は地震による被災状況を写した多くの写真とともに保管されていました。さらに、震災直後に軍艦も救援活動に活躍していたことから、当館ではこれを救援の様子を写したものとして整理していました。そのため企画展「関東大震災と館山」では、当初この写真を「救援物資の搬入とそれを歓迎する人々」として紹介しました。

写真には、海に浮かぶ何隻もの軍艦に向かって浜辺で日の丸を振る大勢の人々が写っています。空には海軍の観測用の気球が飛び、軍艦には三角形の満艦飾（まんかんしょく）が見えます。満艦飾とは停泊中の軍艦が祝祭日・記念日・式典などの際に信号旗・万国旗などの旗で飾られることです。救援に向かう軍艦が満艦飾を施すことは考えられず、他の行事である可能性がでてきました。

企画展を見学した横浜都市発展記念館の吉田律人主任調査研究員の調査により、写真に写る軍艦は戦艦「薩摩」と姉妹艦の「安芸」であることがわかりました。大正13年9月、館山湾には連合艦隊の主力艦艇が集結していました。集結した理由はワシントン海軍軍縮条約によって廃棄が決まった「薩摩」と「安芸」を、野島崎沖で沈めるためです。この時、館山湾へは摂政宮（後の昭和天皇）が乗艦した御召艦が碇泊していました。つまりこの写真は地震直後ではなく、地震から1年後の復興の最中に館山湾を訪問した軍艦や当時の皇太子を歓迎する人々の様子だったのです。

関東大震災後の館山湾の様子には違いありませんが、実際には「救援」ではなく「復興」の様子を写した写真でした。博物館で収集・保管する資料は、調査や展示などの公開によって新しい情報がわかることもあります。当館では今後も幅広く資料を紹介し、情報を更新します。（山村）

令和５年度の事業から

千葉県誕生１５０周年記念事業・関東大震災１００年

令和5年は関東大震災の発生から100年となる節目の年でした。各地で地震に関する展示や行事が開催され、地震や防災への関心が高まる今こそ過去を学び未来に備える機会と考え、当館でも関東大震災をテーマに企画展を開催し、関連事業を実施しました。

館山市をはじめ安房地域は関東大震災により甚大な被害を受けましたが、100年が経った現在、その事実を知らない市民もいます。しかし、各地には当時の様子を伝える資料が残っています。本展覧会は、地震により甚大な被害を受けた安房地域の様子と地震後の救援活動、その後の復興する町村の動向、震災犠牲者の慰霊や伝承について資料で紹介しました。

特に来館者の方から反響があった資料は、同じ場所で撮影された震災前・震災後・現在の写真です。震災前と震災後の写真からは震災前の賑わいと倒潰した建物による被害の大きさがよくわかり、震災後と現在の写真からは、身近な場所で被害があったことや震災後の復興の様子に驚く感想が多くありました。

関東大震災について当館では以前から館山の歴史に欠かせない出来事として資料の収集や調査を進めていました。しかし、実は企画の段階で少しではありますが博物館の外から反対意見もありました。市に災害が起こりやすいというマイナスイメージがつくことを恐れての意見でしょうが、今日災害から無縁でいられる土地はありません。また、生活する場所の地形・地質・建物の状況から地震に伴う建物の倒潰・津波・火事といった災害の種類の予測をたて、立地による救援の遅れといったリスクを想定することは、今後起こる可能性のある災害から身を守るために必要なことです。それは過去に発生した災害からも学ぶことができます。

また、救援直後の混乱状況や復興の経緯はほとんど知られていません。そのため、企画展では館山市を中心とした安房地域と関東大震災との関りについて被災から復旧・復興までを取り上げました。そして、地形の変化や防災については中央公民館と共同でふるさと講座プラスとして講演会を開催しました。

講演会は、産業技術総合研究所の宍倉正展先生に館山市やその周辺地域の大地誕生の歴史と関東地震との関係についてお話しいただきました。市危機管理課による防災講座では、地震津波から身を守るための方法を学び、歴史探訪「震災の足跡をめぐる」では、海岸段丘・記念碑・慰霊施設等市内に残る震災の足跡をめぐりました。また、市図書館と共同で開催した「夏休み宿題大作戦」では市内の小学生が関東大震災をテーマに調べ方について学びました。

企画展と関連事業には多くの来場者があり、地震に対する皆様の関心の高さを知るとともに、当事業が防災意識の向上につなげることができたと考えています。

40のキーワードで紹介
開館40周年記念収蔵資料展
「たてはく大図鑑」

当館は、昭和57年(1982)10月31日に分館(現在の館山城〈八犬伝博物館〉)が、翌58年11月23日に本館が開館しています。令和5年が本館の開館40周年となることから、当館の歴史と活動を振り返る収蔵資料展を開催しました。

今回のポイントは、40周年に合わせて「40のキーワード」で紹介すること。また、普段はあまり紹介できない博物館の裏側の活動を来館者の皆様に知っていただきたい、という思いもありました。構成は「たてはく誕生」「ささえる人々」「大切な資料」「展示ができるまで」「楽しく学ぼう」の5パート。博物館が立地する館山城跡の歴史から、博物館ボランティアの活動、資料の収集方法や展示準備作業などまで幅広く紹介し、来館者の方からは「展示準備にこんなに時間がかかるとは知らなかった」などの声が寄せられました。

たてはくクイズ！

本館開館の翌年から開始し、現在も続いている講座はなんでしょうか？　答えは展示解説動画をご覧ください。

展示解説動画はこちらから

寄付資料一覧　―ご協力に感謝します―

寄贈資料名	寄贈者（敬称略）
亀入家文書　他	館山市　安部圭子
古文書	館山市　館野地区公民館
寺崎武男「ナポリ/ヴェスヴィオ火山」	館山市　永井　玉
輿	館山市　相賀区
写真付はがき	沖縄県　社会福祉法人那覇市社会福祉協議会
『千葉県の漁港』、震災写真	館山市　小滝　勝
『洋服界の開拓者 関根翁奮闘伝』	南房総市　小宮壽夫
若潮マラソンスタッフキャップ　他	館山市　山形達哉
結束台（古川製材所使用）　他	南房総市　渡邉　篤
北條線列車時刻表　他	館山市　丸山　徹
金牌（平和記念東京博覧会）　他	館山市　金木幹人
山口栄彦氏調査・収集資料	神奈川県　山口栄彦
海軍軍装品　他	船橋市　常永たまみ
『復刻日本古典文学館 南総里見八犬伝 第四輯巻之一』	鴨川市　石井幸八
寺崎武男画色紙（ヴェニス）　他	東京都　遠藤洸子
法被	館山市　個人
房陽神風隊鑑札　他	木更津市　石井豊夫
如輪木地蝋色弁当	館山市　島田輝弥
千葉県立安房第二高等学校修学旅行しおり「関西の旅」	東京都　牛米　努
安房国札・郡札観音巡礼等関係資料(案内チラシ・御朱印等)　他	埼玉県　飯田一夫
糀屋呉服店写真　他	館山市　保科映子
袋入り絵はがき「館山三景二勝」、農村振興千葉県宝くじ	佐倉市　井原重之
川名・根岸両組伊勢講仲間文書	館山市　和泉澤和子
石井家印半纏　他	館山市　石井　清・唆才

ピックアップ八犬伝

八犬傳物語

『八犬傳物語』は、高知県出身で明治から大正にかけて活躍した文筆家の大町桂月（おおまちけいげつ）が、『南総里見八犬伝』を要約して一冊にまとめたものです。本資料は大正6年（1917）に出版されました（初版は大正5年）。

江戸時代後期に執筆され人気を博した「八犬伝」ですが、明治時代になると小説家の坪内逍遥らによって、近代文学が乗り越えるべき旧時代の戯作文学として批判されてしまい、評価は没落していきます。

そうした中、桂月は「八犬伝」を武士道の理想を描いたものであると高く評価しました。桂月は、国民の道徳の古今を通じて変わらない本質は武士道であり、国民道徳の経典として万民に勧めたいが、「八犬伝」は大作にすぎ、読破するには多くの根気や時間やお金が必要なため、一冊にまとめたと序文に記しています。

「八犬伝」は時代を越えて今も多くの人々に愛されていますが、それは、逆境の時代の中でも「八犬伝」のことを忘れずに評価し、伝えてきた人たちがいたおかげかもしれませんね。（廣田）

八犬傳物語（右）と外箱（左）

たてはくニュース！

新指定の小網寺密教法具

令和5年6月27日、当館でお預かりしている小網寺（館山市出野尾）の金銅密教法具が新しく重要文化財に指定されました。銅に金の鍍金が施された密教法具は、鎌倉時代から室町時代に作られたもので、異なる時代のものが組み合わされています。これまでは県指定文化財でしたが、そのうちの柄香炉を除く20点が国の指定になりました。

密教法具が伝わる金剛山小網寺は真言宗の寺院で、鎌倉時代に密教道場として大規模な伽藍が整備され隆盛しましたが、その後荒廃し、室町時代に再興しています。江戸時代には幕府から25石の寺領を与えられ、西岬・神戸地区を中心に33か寺の末寺をかかえていました。

密教法具のうち金剛盤などの裏には「金澤」「審海」の銘があり、東京湾を挟んで対岸の三浦半島の金沢称名寺（横浜市）の妙性房審海に関連する法具と考えられます。小網寺には鎌倉の鋳物師による梵鐘も残され、東京湾をはさんだ相模と安房の文化の交流をうかがわせます。

重要文化財に指定された
小網寺の金銅密教法具

博物館のできごと〈ダイジェスト〉令和5年3月～令和6年2月

◆令和5年3月

12日　企画展「供養する人々」（2月4日～3月21日）解説会開催

◆4月

21日　指定管理者事業「南総里見八犬伝総選挙」開催（館山城、～10月9日）

22日　新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」開催（～5月28日）

◆5月

30日　房州うちわ振興協議会・雇用商工課・博物館共同展示「安房のおりなす未来の風　房州うちわ技の伝承展」開催（渚の博物館、～令和6年3月24日）

◆6月

1日　燻蒸実施のため、本館・館山城臨時休館（～8日）

17日　歴史教室「古文書を読んでみよう」開催（～令和6年1月、4クラス各8回）

◆7月

19日　NHK BSプレミアム「英雄たちの選択　戦国パイレーツ里見一族の野望」にて当館資料紹介

29日　千葉県誕生150周年記念事業・関東大震災100年企画展「関東大震災と館山」開催（～10月9日）

◆8月

5日　企画展解説会開催

6日　図書館・博物館連携事業「なつやすみ宿題大作戦」開催（1回目、26日に2回目開催）

なつやすみ宿題大作戦

◆9月

2日　企画展解説会開催

13日　博物館実習実施（～21日、計6日間）

◆10月

1日　公民館・博物館連携事業　ふるさと講座プラス「関東大震災と館山」開催

20日　指定管理者事業「馬琴展」開催（館山城、～令和6年1月28日）

◆11月

18日　開館40周年記念収蔵資料展「たてはく大図鑑」開催（～令和6年1月28日）

23日　館山市立博物館本館が開館40周年を迎える収蔵資料展解説会開催

◆12月

9日　歴史教室「わたしの町の歴史探訪―宝貝・水岡―」開催

◆令和6年1月

1日　指定管理者事業　館山城正月臨時開館（館山城、～3日）

14日　収蔵資料展解説会開催

◆2月

1日　博物館協議会開催

テーマ展示「新しく指定された小網寺の密教法具と安房の仏教文化」開催（～4月7日）

9日　指定管理者事業「八犬伝と双六展」開催（館山城、～4月7日）

24日　生涯学習課・博物館連携事業講演会「新たに重要文化財となった小網寺の密教法具と柄香炉」開催

たてはく　日々コラム

～館山市立博物館（たてはく）の日々のできごとを紹介します～

事業仕分けの結果は「現行通り・拡充」

令和５年９月23～24日、館山市事業仕分けが行われました。16事業・施設が対象となり、市立博物館本館・館山城（八犬伝博物館）・市立博物館分館（渚の博物館）の３施設についても議論が行われました。結果は３施設すべてが、最も高評価となる「現行通り・拡充」。「要改善」となる事業が多い中で、博物館３施設のみが、これまでの活動を元にありがたい評価をいただくことができました。

仕分け人（外部有識者等）や市民判定人の皆さんからは、施設整備や内容の充実化、観覧料等についての要望のほか、日頃の感想なども伺うことができ、大変参考になるとともに励みにもなりました。特にうれしかったのは、「市立博物館に行ったことがある人は？」との問いかけに対し、市民判定人の大部分の方が手を挙げてくださったことです。観光地にある当館では来館者の９割を市外の方が占めますが、市民の方にも繰り返しご利用いただける博物館を、引き続き目指していきたいと思います。